

常陸秋そば 栽培ごよみ

ポイント I 出芽・苗立ちの安定

排水をよくする
 目標苗立数一慣行 100本/m²
 ドリル・散播 120～140本/m²

ポイント II 倒伏防止

基肥は控えめ
 慣行(60cm畦・条は)では
 必ず培土を

ポイント III 仕上げ

子実水分16%以下
 異物は除く



適地

畑または排水のよい輪換畑
 輪換畑の排水対策は万全に!!
 暗きよの他に明きよを必ず設
 け表面水の排水を!!

は種期

県北山間 8月10～15日
 県北 8月15～20日
 県央 8月20～25日
 県南、県西、鹿行
 8月24～27日

施肥(kg/10a)

ほ場	チッソ		リン		カリ	
	基肥	追肥	基肥	基肥	基肥	基肥
地力高	0 kg	0～2kg	3 kg		4 kg	
地力中	2	0	3		4	
地力低	2	2	3		4	

追肥は着蕾～開花期に実施

収穫期の目安

- ◎手刈り、刈取機利用の場合
 全体の子実の70～80%が黒くなっ
 ったとき
- ◎コンバイン利用の場合
 全体の子実の80～90%が黒くなっ
 ったとき

乾燥

静置式乾燥機を用いるとき
 は、送風温度を30℃以下で、
 子実水分を16%以下に
 ○水分むらを無くするため1～2回攪拌

ほ場準備

耕深15～20cmに耕うん

PHは5.5～6.0を目標に
 土壌改良資材を投入

は種量(kg/10a)

慣行 5 kg
 (60cm畦、条は)
 ドリル播 5～7 kg
 (30cm畦)
 散播 5～7 kg

中耕・培土(慣行のみ)

培土高10cm
 着蕾～開花初期に実施

農産物検査規格(普通そば)

等級	項目	最低限度	最高限度			
		容積重(g)	水分(%)	被害粒(%)	異種穀粒(%)	異物(%)
1等		640	16.0	5	1	0
2等		580	16.0	15	2	1

そば奨励品種特性表

品種名	来歴または 両親名	奨励品種 採用年度	生態系	播種期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	主莖長 (cm)	主莖節数 (節)	分枝数 (本/株)	千粒重 (g)	子実重 (kg/10a)	子実			食味	栽培適地	特記事項
												整否	粒色	品質			
常陸秋そば	在来種からの選抜	昭60	中間～秋型	8.21	9.14	10.25	93	9.9	2.6	35.9	168	整	黒褐	良	良	県内全域の普通畑および輪換畑	他家受粉のため自家採種を繰り返すと品質が低下する。

(注) 1 数値は下記条件における試験結果による。

(1) 試験年次：昭和60年～平成元年 5ヶ年の平均値

(2) 試験条件：播種量(10a当り) 5 kg、畦幅60cm

施肥量(10a当り) 窒素：2 kg、りん酸：3 kg、加里：4 kg

(3) 試験圃場：茨城県農業総合センター農業研究所(水戸市上国井町)、畑(表層腐植質黒ボク土)

2 開花期：全株数の約50%が開花始めに達した日

成熟期：子実の約80%が成熟に達した日

種子更新で品質の高い 常陸秋そばを

茨城県の奨励品種「常陸秋そば」を作付けしましょう。
採種ほ産の優良種子で、定期的に種子更新しましょう。

そばは、虫が媒介して受粉する作物であるため、「常陸秋そば」以外の品種を栽培すると、交雑することで近隣の「常陸秋そば」の品質低下を引き起こします。このため、茨城県内では「常陸秋そば」を作付けするようご協力願います。

また、自家採種を繰り返すと収量・品質等が低下します。定期的に採種ほ産の種子に更新を行い、品質・評価の高い「常陸秋そば」の評判を維持しましょう。

土づくりで安定生産を

土壤改良資材・堆肥・緑肥作物・輪作による土づくりを進めましょう。

そばは、やせ地でも生育しますが、高品質なそばを安定生産するためには、適正な肥培管理が必要です。

土壤改良資材や堆肥の投入、緑肥作物の導入、輪作の実施による土づくりを進めましょう。

